

ロボット・テクノロジー  
関連株ファンド（年1回決算型）  
ーロボテック（年1回）ー

<5691>

追加型投信／内外／株式  
日経新聞掲載名：ロボテック1

第10期 2025年9月16日決算

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第10期末	基準価額	40,295円
	純資産総額	18,427百万円
第10期	騰落率	16.4%
	分配金	0円

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先  
コールセンター 受付時間 9：00～17：00（営業日のみ）  
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書（全体版）」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書（全体版）」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

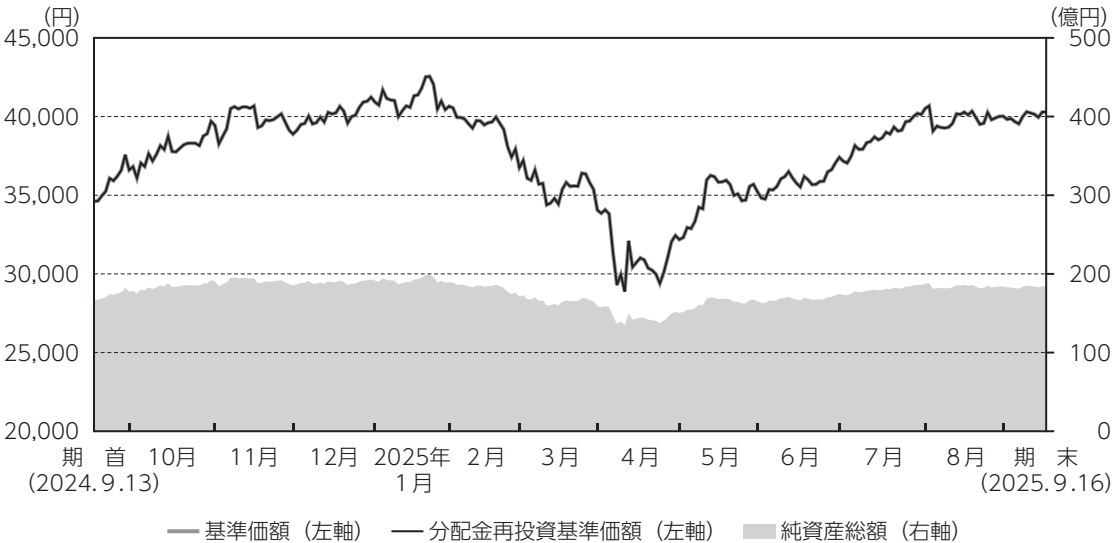
◇TKU0569120250916◇

「運用報告書（全体版）」の閲覧・ダウンロード方法  
上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書（全体版）を選択



# 運用経過

## 基準価額等の推移について



（注）分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- \* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- \* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

### ■ 基準価額・騰落率

期 首：34,603円  
期 末：40,295円（分配金0円）  
騰落率：16.4%（分配金込み）

### ■ 基準価額の主な変動要因

当作成期の基準価額は、グローバル株式市況の上昇がプラス要因となり、上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2024.9.14~2025.9.16)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	470円	1.248%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は37,683円です。
(投 信 会 社)	(146)	(0.388)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(313)	(0.832)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(10)	(0.028)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	3	0.008	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(3)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	473	1.256	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

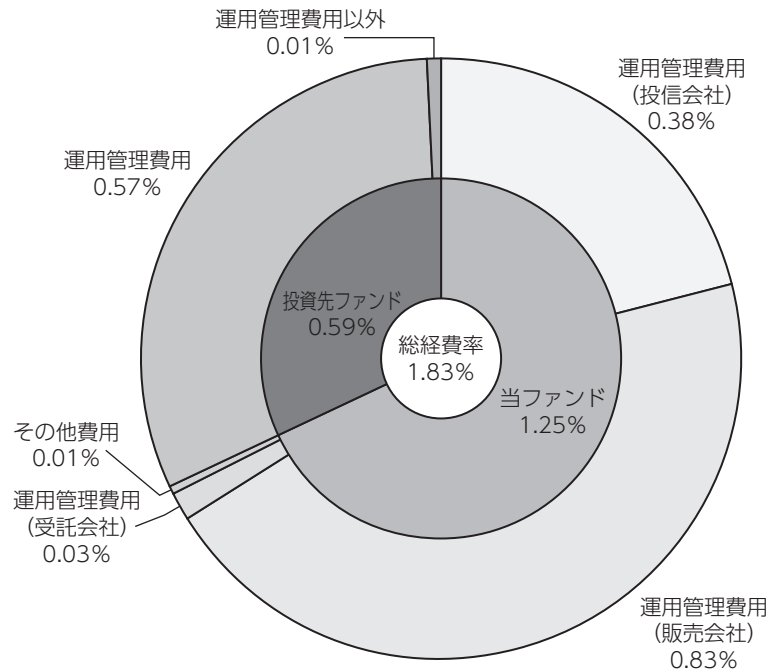
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.83%です。



総経費率（①＋②＋③）	1.83%
①当ファンドの費用の比率	1.25%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.57%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、上記以外に含まれていない費用は認識しておりません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、2020年9月14日の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 参考指数はMSCI AC World指数（税引後配当込み、円換算）です。参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

	2020年9月14日 期初	2021年9月13日 決算日	2022年9月13日 決算日	2023年9月13日 決算日	2024年9月13日 決算日	2025年9月16日 決算日
基準価額 (円)	21,446	30,189	27,933	30,664	34,603	40,295
分配金 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	40.8	△7.5	9.8	12.8	16.4
MSCI AC World指数 (税引後配当込み、円換算) 騰落率 (%)	—	37.0	12.8	13.3	18.0	25.7
純資産総額 (百万円)	13,015	15,627	15,034	15,838	16,697	18,427

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) MSCI AC World指数（税引後配当込み、円換算）は、MSCI Inc.（「MSCI」）の承諾を得て、MSCI AC World指数（税引後配当込み、米ドルベース）をもとに大和アセットマネジメントが円換算したものです。MSCI AC World指数（税引後配当込み、米ドルベース）は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関与していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。（<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>）

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

## 投資環境について

(2024.9.14～2025.9.16)

### ■グローバル株式市況

グローバル株式市況は上昇しました。

グローバル株式市況は、当作成期首から2024年12月末にかけて、米国大統領選挙の動向が意識されたものの、F R B（米国連邦準備制度理事会）による0.5%の利下げに加えて、市場に融和的な政策を掲げるトランプ氏の再選が好感され、堅調に推移しました。2025年4月上旬にかけては、米国政府が、一律10%の基本関税に加えて大方の市場参加者が予想していたよりも大幅に高い相互関税を発表したことで、反落しました。しかし6月末にかけては、米国政府が関税に対する強硬な姿勢を和らげ主要国と貿易協議を進展させたこと、また消費者信頼感指数や企業景況感指数などの景気先行指標の改善が好感され、株価は反発しました。当作成期末にかけては、米国政府が複数の国と貿易合意に至ったことや、好調な企業業績および利下げ期待が相場の支援材料となるなど、投資環境の改善から、株価は騰勢を強める展開となりました。

### ■為替相場（米ドル／円、ユーロ／円）

米ドル円相場は上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首から2025年1月末にかけて、米国の大統領選挙で再選したトランプ氏が拡張的な財政政策を打ち出すとの見方から米国長期金利が上昇し、日米金利差の拡大が意識されたことで、円安米ドル高が進行しました。しかし4月下旬にかけては、米国の関税政策を受けてリスク回避の動きが急速に広がったことで、米ドルは対円で下落（円高）しました。6月末にかけては、日米金利差の縮小見通しや中東情勢の不透明感が重しとなった一方で、貿易交渉の進展期待や日銀の追加利上げに対する慎重な姿勢が材料視され、円安米ドル高が進行しました。当作成期末にかけては、参議院議員選挙で拡張的な財政政策を掲げる政党が躍進したことで円安がさらに進行する場面も見られましたが、米国の金融政策運営や金利動向が意識されたことで、対円での上昇幅は限定的となりました。

ユーロ円相場は上昇しました。

ユーロ対円為替相場は、当作成期首から2024年12月末にかけて、日銀の金融政策運営に注目が集まる場面も見られましたが、依然として日欧の金利差が開いた状況が続くとの見方が強まったことなどから、円安ユーロ高が進行しました。2025年3月中旬にかけては、日銀の利上げ観測が高まった一方で、E C B（欧州中央銀行）は継続的な利下げを実施したことで、金融政策の方向性の違いから円高が進行しました。5月中旬にかけては、米国の関税政策をめぐりユーロは対円で上値の重い推移となりました。7月末にかけては、米国と主要国間での貿易交渉の進展期待に加えて、E U（欧州連合）の行政執行機関である欧州委員会が、欧州独自の防衛力強化やウクライナ支援を目的とした財政拡大方針を示したことで、ユーロは対円で上昇しました。その後は当作成期末にかけて、日銀の利上げ観測や、米国の金融政策運営と金利動向が意識されたものの、ユーロは対円で底堅く推移しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

※ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）：アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）

### ■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転の実現を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

当ファンドで注目する長期的な成長テーマとその投資機会は引き続き強固であると考えています。将来的な成長期待の高い、ロボット関連産業の企業に投資を行うことで中長期的な信託財産の成長をめざします。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## ポートフォリオについて

(2024.9.14~2025.9.16)

### ■当ファンド

当ファンドは、「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」と「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」へ投資するファンド・オブ・ファンズです。当作成期を通じて、「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」を高位に組み入れました。

### ■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行い、信託財産の成長をめざしました。企業規模の面ではアマゾン・ドット・コムやキーエンスのような大型株からシリコン・ラボラトリーズやプロセプト・バイオロボティクスなどの中小型株にも幅広く投資しました。地域別では、ロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国や日本を中心に投資しました。

個別銘柄については、アドバンスト・マイクロ・デバイセスを全売却しました。一方で、プロセプト・バイオロボティクスの組み入れを増やしました。同社は堅調な業績を発表したものの、CEO（最高経営責任者）の退任など経営陣の交代が嫌気され、株価は下落しました。運用チームでは、同社は前立腺手術に特化した手術ロボット事業で成長が見込まれると考えています。また、電気自動車市場での進展が期待できることから、中国のエレクトロニクスメーカー小米集団（シャオミ）を新規に組み入れ

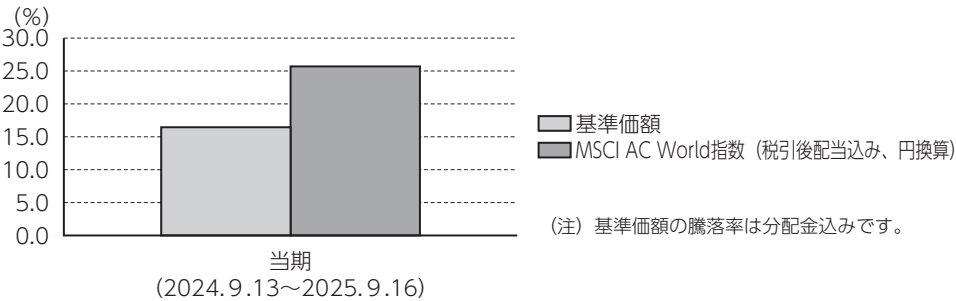
ました。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期は、信託財産の成長を考慮し、収益分配を見送らせていただきました。  
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2024年9月14日 ～2025年9月16日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（％）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配対象額	（円）	30,294

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。





## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」の組入比率を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

### ■ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場のさまざまなロボット関連産業の企業に投資を行います。「作る」では、ロボット産業におけるリーディングカンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業などに注目しています。「運ぶ」では、自動運転技術を可能とするソフトウェアや半導体企業に注目しています。「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業などに注目しています。

メガテック企業は引き続きAI（人工知能）インフラ整備に巨額の投資を行っており、設備投資額は高水準を維持しています。この巨額の投資は2026年も続くことが予想されます。米国の「1つの大きく美しい法案（OBBB法）」の成立によって、インフラ整備や研究開発投資の即時減価償却が可能となることから、巨額の投資をする企業にとって税制上のメリットがもたらされることが期待されます。今後も、将来的な成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことで、中長期的な信託財産の成長をめざします。

当ファンドで注目する長期的な成長テーマとその投資機会は引き続き強固であると考えています。将来的な成長期待の高い、ロボット関連産業の企業に投資を行うことで、中長期的な信託財産の成長をめざします。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行う方針です。



## お知らせ

### ■運用報告書にかかる信託約款の条文変更について

2025年4月1日付の投資信託及び投資法人に関する法律の改正により、運用報告書にかかる規定が変更されたため、運用報告書にかかる信託約款の条文を以下のとおり変更しました。（下線部を変更）

<変更前>

（運用報告書に記載すべき事項の提供）

- ①委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書の交付に代えて、運用報告書に記載すべき事項を電磁的方法により提供します。
- ②前項の規定にかかわらず、委託者は、受益者から運用報告書の交付の請求があった場合には、これを交付します。

<変更後>

（運用状況にかかる情報の提供）

- ①委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める事項にかかる情報を電磁的方法により提供します。
- ②前項の規定にかかわらず、委託者は、受益者から前項に定める情報の提供について、書面の交付の方法による提供の請求があった場合には、当該方法により行なうものとします。

---

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われ、交付運用報告書については書面交付を原則としていた規定が変更されました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全など、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供を進めてまいります。



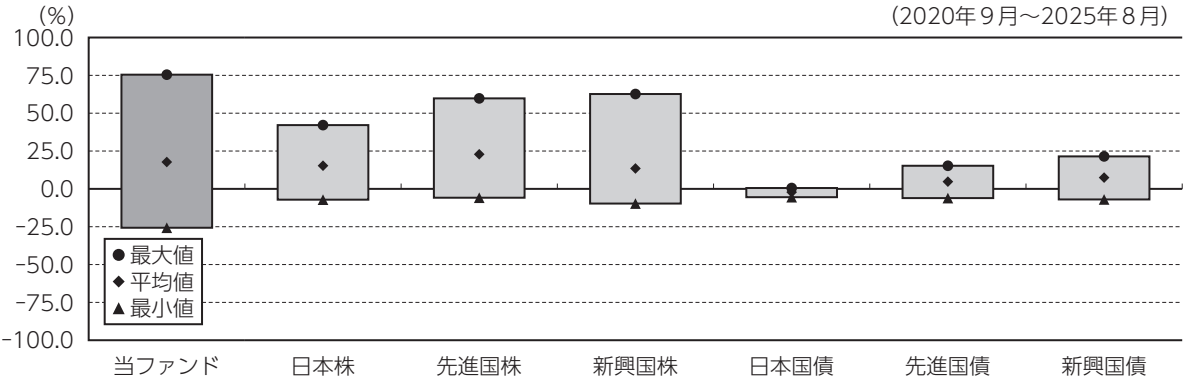
## 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式	
信 託 期 間	2016年2月8日～2050年9月13日	
運 用 方 針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主 要 投 資 対 象	当ファンド	イ. アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）（以下「ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）」といいます。）の受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
当 ファンド の 運 用 方 法	<p>①主として、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）の受益証券を通じて、日本を含む世界のロボット関連企業の株式（DR（預託証券）を含みます。）に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>②当ファンドは、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）への投資割合を高位に維持することを基本とします。</p> <p>③ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
マザーファンドの運用方法	<p>①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。</p> <p>②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。</p>	
分 配 方 針	<p>分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。</p>	



# 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2020年9月～2025年8月)



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国国債	新興国国債
最 大 値	75.5	42.1	59.8	62.7	0.6	15.3	21.5
平 均 値	17.7	15.3	22.9	13.5	△2.2	4.8	7.4
最 小 値	△25.7	△7.1	△5.8	△9.7	△5.5	△6.1	△7.0

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてののみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

- 日本株……………配当込みT O P I X
- 先進国株……………MSC I コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
- 新興国株……………MSC I エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
- 日本国債……………N O M U R A – B P I 国債
- 先進国債……………F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
- 新興国債……………J P モルガン ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みT O P I Xの指数値および同指数にかかる標準または商標は、株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標準または商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSC I コクサイ・インデックスおよびMSC I エマージング・マーケット・インデックスは、MSC I Inc.（「MSC I」）が開発した指数です。本ファンドは、MSC Iによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSC Iは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任を負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。（<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>）●N O M U R A – B P I 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。N O M U R A – B P I 国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●F T S E 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●J P モルガン ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性、正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



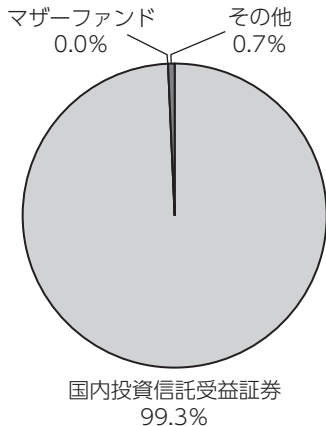
# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

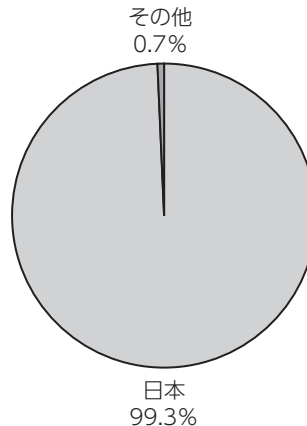
### 組入ファンド等

	比 率
ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）	99.3%
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0.0
その他	0.7

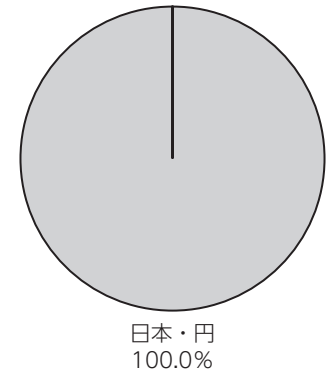
### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分



（注1）上記データは2025年9月16日現在のものです。

（注2）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注3）国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

## 純資産等

項 目	当 期 末
	2025年9月16日
純資産総額	18,427,773,691円
受益権総口数	4,573,242,073口
1万口当り基準価額	40,295円

\* 当期中における追加設定元本額は493,164,117円、同解約元本額は745,293,819円です。

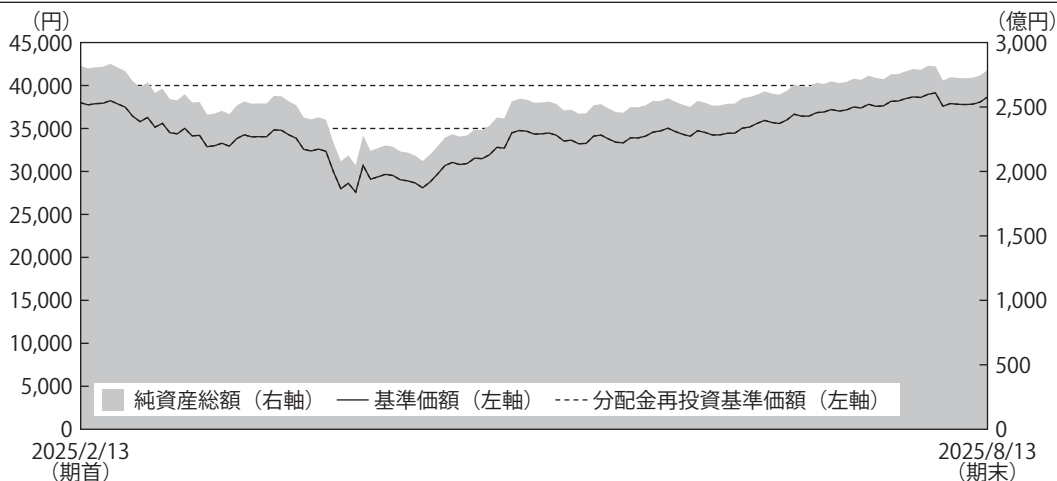
\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

## 組入上位ファンドの概要

◆アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）  
（作成対象期間 2025年2月14日～2025年8月13日）

### ■基準価額等の推移について

（2025年2月14日～2025年8月13日）



期首：37,995円  
 期末：38,662円（既払分配金（税込み）：0円）  
 騰落率： 1.8%（分配金再投資ベース）

## ■ 1万口当たりの費用明細

（2025年2月14日～2025年8月13日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	98円	0.286%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は34,390円です。
（投 信 会 社）	（ 94）	（0.273）	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
（販 売 会 社）	（ 1）	（0.003）	販売会社分は、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	（ 4）	（0.011）	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
売 買 委 託 手 数 料	2	0.007	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株 式）	（ 2）	（0.007）	
そ の 他 費 用	2	0.007	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	（ 0）	（0.000）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	（ 2）	（0.007）	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	103	0.301	

（注1）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

（注2）金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注3）比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ■当ファンドの組入資産の内容

### 組入ファンド等

（組入銘柄数：1銘柄）

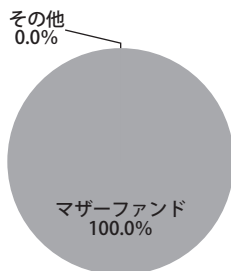
フ ァ ン ド 名	第19期末 2025年8月13日	
アクサ I M・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド		100.0%
その他		0.0

（注1）比率は純資産総額に対する割合です。

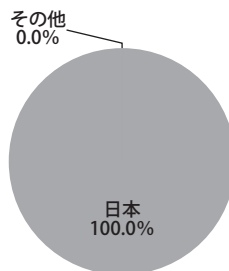
（注2）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

（注3）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

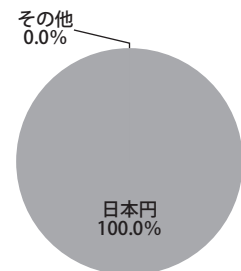
### ◆資産別配分



### ◆国別配分



### ◆通貨別配分

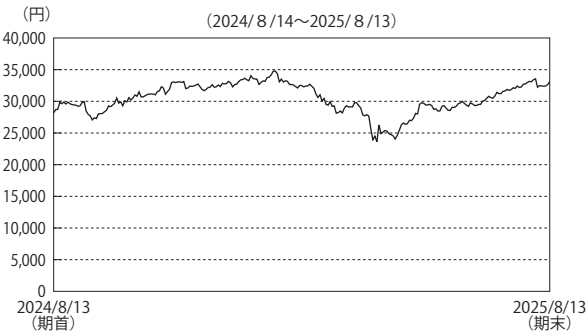


（注）比率は純資産総額に対する割合です。

※以下のファンドはアクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）が組み入れているファンドです。

アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式マザーファンド

【基準価額の推移】



— 基準価額（左軸）

【1万口当たりの費用明細】

(2024年8月14日～2025年8月13日)

	金額	比率
売買委託手数料 (株 式)	5円 ( 5 )	0.017% (0.017)
その他の費用 (そ の の 他)	5 ( 5 )	0.015 (0.015)
合計	10	0.033

期中の平均基準価額は、30,465円です。

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

【組入上位10銘柄】

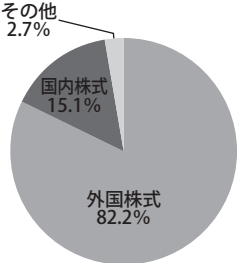
(2025年8月13日現在)

(組入銘柄数：51銘柄)

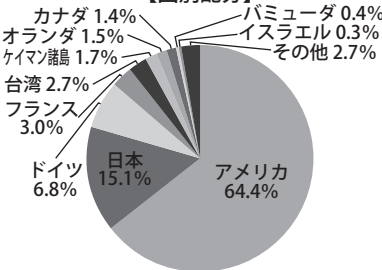
	銘柄名	通貨	比率
1	NVIDIA CORP	米ドル	8.2%
2	AMAZON.COM INC.	米ドル	4.6%
3	CADENCE DESIGN SYS INC	米ドル	4.2%
4	キーエンス	日本円	3.3%
5	SIEMENS AG	ユーロ	3.2%
6	ダイフク	日本円	3.1%
7	SCHNEIDER ELECTRIC SE	ユーロ	3.0%
8	INTUITIVE SURGICAL INC	米ドル	3.0%
9	BROADCOM INC	米ドル	3.0%
10	ファナック	日本円	2.9%

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。  
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

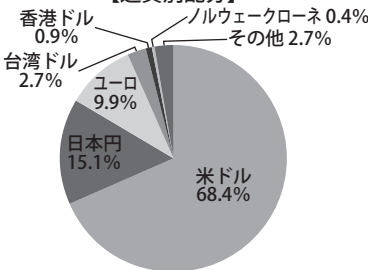
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



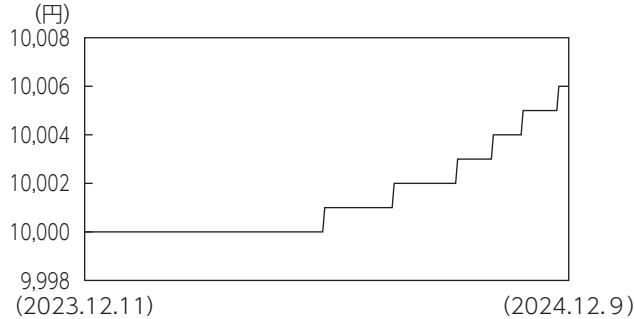
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。



◆ダイワ・マネースtock・マザーファンド（作成対象期間 2023年12月12日～2024年12月9日）

■基準価額の推移



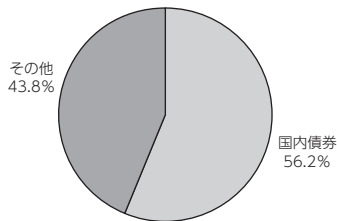
■1万口当りの費用の明細

項	目	
売買取手手数料		-円
有価証券取引税		-
その他費用		-
合	計	-

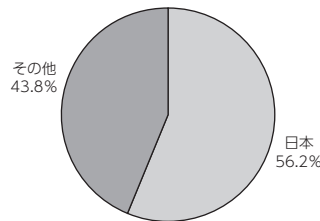
■組入上位銘柄

銘柄名	比率
1258国庫短期証券 2024/12/23	22.2%
1266国庫短期証券 2025/2/10	17.3
1231国庫短期証券 2025/5/20	16.7
組入銘柄数	3銘柄

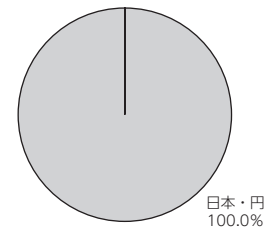
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

# Memo

# Memo

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management